

4. FT年代測定法スライドシミュレーション

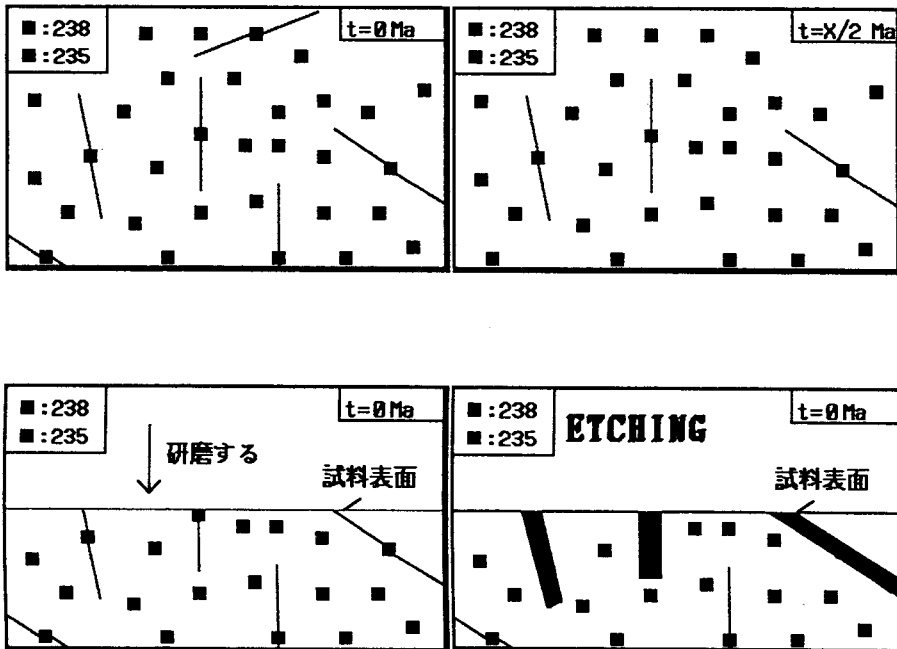
角井朝昭 (地質調査所・燃料資源部)

フィッシュン・トラック法の地質年代測定に関する論文が、世界で初めて出版されたのは1960年代前半で、日本においてFTD法の実施例が増えだしたのは70年代前半でした。現在では測定サービス会社もいくつかでき、ありふれた地質情報の一つになっています。しかし、日本語で書かれたエンドユーザー向けの適当なテキストが未だ無く、FTD情報の取扱い方に対しては戸惑いを感じる方は多いようです。

FTD情報のエンドユーザーとしての地質学研究者の数が、日本で最も大きいのは、おそらく地質調査所でしょう。今回、FT研を地質調査所で開催する機会をとらえ、エンドユーザーのためにFTD法についてのレビューを目的として表記タイトルで講演しましたが、残念ながら事前のPR不足もあり、地質調査所の地質学研究者の数%しか聴講してもらえませんでした。

今回のFT研でも議論した<較正法に関する標準化勧告案>は、ただ、FTD研究者のみならず、広い意味でのエンドユーザーにも正しく理解されるべきであるとは考えます。現状ではFTD情報のエンドユーザーの多くは、測定作業をブラックボックス化した上で、個々の年代値の信頼度を過小に、あるいは過大に評価する傾向に有ります。このようなエンドユーザーに<標準化勧告案>が正確に理解されるのでしょうか？

我々の生産する年代情報は、論文公表された時点から我々個人以外のエンドユーザーによっても2次的に利用されます。そのような状況における誤解や曲解を避ける為にも、できるだけ多くの機会をとらえ、エンドユーザー対象の説明活動を続けていくべきだと思います。



↑ 今回の講演のために作成したスライド